

「STI for SDGs」 アワード

「STI for SDGs」アワードは、科学技術イノベーション（STI）を用いて社会課題を解決する地域における優れた取り組みを表彰し、受賞取組のさらなる発展や他地域への水平展開をすすめることでSDGs達成への貢献を目指しています。



科学技術イノベーションでSDGsに貢献！

メリット 1

表彰イベントでアピールができる



多様な価値観の人々が集まる「科学と社会をつなぐ広場」サイエンスアゴラで表彰イベントを実施。

表彰イベントでは、受賞者の皆さまご自身で取り組みをアピールできます。

メリット 2

取り組みを広く知ってもらえる



受賞した取り組みの内容や活動にこめた想いをいろいろな方に知ってもらうため、環境展示会「エコプロ」など、JSTが関連するイベントでの登壇機会が得られます。JSTの情報発信サイトなどでも取り組みの内容を発信していきます。

メリット 3

取り組みの幅が広がる



面接選考では、取り組みの幅が広がるような選考委員のアドバイスや応援メッセージをお送りします。受賞後は、ともに活動できる仲間作りや、多様な視点を持った人々からの刺激を受けられる場として活用できる共創イベントなどへの参加機会が得られます。

**2021年度
公募情報**

公募期間

2021年4月15日(木)～6月30日(水)

結果発表

2021年10月中旬(予定)

表彰

2021年11月上旬
(サイエンスアゴラにてイベント実施予定)

後援

文部科学省

お問合せ先

国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部

E-mail

sdgs-award@jst.go.jp

URL

<https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/sdgs-award/>



文部科学大臣賞

みんなでつくるバリアフリーマップ 「WheelLog!」

団体名 一般社団法人WheelLog、島根大学総合理工学研究所、株式会社オリィ研究所、株式会社ナノコネクト

抱える課題

バリアフリーが推進される現代でも、未だに、車いす利用者に代表される「移動困難者」が自由に移動できる状況にはない。移動困難者にとっては、外出時の移動困難から生活にためらいが生じ、人生の可能性を奪われかねない状況がある。



取組概要



「移動困難者」に特化したバリアフリー情報共有アプリ「WheelLog!」を開発。カメラやGPS機能を活用し、スポット(点)の情報と、移動経路を記録した「走行ログ」(線)の情報を組み合わせることで、移動困難者に必要な「面」の情報を提供。移動に困難を抱えない人々も巻き込み、皆が住みやすい社会の構築に貢献。

科学技術振興機構理事長賞

超小型モバイル胎児モニターを用いて安心・安全な妊娠・分娩を実現する

団体名 香川大学、メロディ・インターナショナル株式会社、NPO法人 e-HCIK(イーシーク)

抱える課題

世界には産科医や助産師の不足が原因で安心・安全に出産できない地域が多数あり、「医療格差」が発生している。また、高リスクを伴う妊娠も多数ある。



取組概要



小型軽量化したモバイル胎児モニターを開発。このモニターを使うことで、妊婦自身が胎児の心拍数を計測し、そのデータを産科医と共有できるようになる。これにより、産科医や助産師不足の地域での医療格差の解消や、高リスクを伴うケースでの安心・安全な妊娠・分娩に役立つオンライン診断システムを可能にした。今後、救急搬送時や災害時での活用、海外の発展途上国への展開も期待される。

優秀賞

赤島活性化プロジェクト ～雨水活用による持続可能社会の模索～

団体名 しまあめラボ

抱える課題

島しょ部には未だ水不足の問題があり、都市部でも近年の気候変動に伴う豪雨や渇水被害の甚大化が懸念されている。そのため、雨水を活かすシステムの開発や雨水活用推進のための人材育成が大きな社会課題となっている。



取組概要



全生活用水を雨水に依存する長崎県五島市の赤島に「自立分散型スマート雨水活用システム」を設置し、限られた水資源の確保とその運用を行っている。また、雨水活用に関する環境教育プログラムで、雨水活用への理解と人材育成も促進。島しょ部での水資源の活用だけでなく、市街地における内水氾濫への対応や、海外への展開も期待される。

優秀賞

独自デバイスを用いた尿中miRNAの網羅的解析による高精度がん早期発見

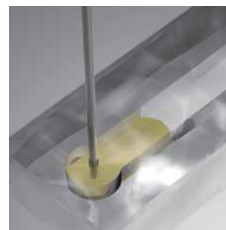
団体名 Craif株式会社

抱える課題

世界でのがんによる死亡者数は2018年時点で約960万人(出展:WHO)であり、今後も増加傾向にあると見込まれている。一方、がん検診は十分に普及していない現状がある。



取組概要



独自デバイスとAIを組み合わせて、わずか1mlの尿から肺がん・脳腫瘍などを発見可能とするエクソソームバイオマーカー解析プラットフォームを開発。将来的には複数がんを対象にした尿検査を提供予定だが、先んじて同技術を活用したリスクチェックキットの提供も予定している。

